第 2015-27 号

恵みと真理のニュース

2015 年 7 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

偶像崇拝をする罪の人生から祝福になる信仰の道に歩めるように導かれ、神癒と救いの恵みを与えてくださった神様に感謝します

私の父の職業と言わば巫俗で母は占い師と呼ばれました。このような家庭環境で生まれ私も自然に偶像崇拝をしました。私の家で祭祀を行ないました。よく人々が私の家で祭祀を行なって私の名前の変わりに巫女の娘と呼ばれました。神様を知らないので偶像崇拝がどのくらい大きい罪か分からないまま10人兄弟の中で末子に出会って結婚しました。
旦那がまじめで豊かではなかったですが、問題なく3人の兄弟を産み過ごして来ました。どころが、隣り人に恵みと真理教会の区域長の一人が引っ越しして来て私に熱心に福音を伝えました。はじめは伝道されると強く断りました。しかし、区域長も断るにも関わらず福音を続けて伝えるのが感動になり決信して教会に通い始めました。それから2年間教会に通い神様の恵みを多く体験しました。
　ある日からまるで頭をきりでぶすりと突き刺すような痛みがあって苦労しました。酷くなると目を開けられないくらいでした。病院に通い治療を受けても薬を飲んでも治らなかったです。区域礼拝でも聖徒達が共に祈ってくださり牧師から祈ってもらって治りました。神様が治療してくださいました。　どころが引越しをして信仰生活が疎かになり教会をやめるようになりました。
そのように神様の居所を離れ2年が経てまた頭が痛くなりました。今回は以前と比較できないほど痛かったです。しかし、愚かな行動で家のあちこちにお守りを置きました。当然無意味でした。そのごろ旦那が職場で主な火傷を負いました。旦那は2ヶ月間病院で入院して退院しても3ヶ月間治療を受けました。そんな状況で頭の痛みが酷くなり、教会に行って悔い改めると治ると考えました。以前のように教会に行って神様に礼拝して祈りすると治してくださると思いました。夜が明けてきて区域長に訪問を頼みました。すると遠いからすぐ執事達と共に家に訪問してくださいました。家に置いた見守りを全部整理し神様に礼拝を捧げました。そして次の主日にスワン聖殿に行って礼拝を捧げました。その日あまりにもたくさん泣きました。まず悔い改める祈りをして神様の癒しを願い切に祈りました。次の日になりました。神様は今回も愛の権能で治療してくださいました。嘘のように痛みはなくなり目も治りました。神様は戻って来たどら息子のような私を限りなく愛し慈しんで赦し、抱いてくださり痛いところあちこち治療してくださいました。
今回も相変わらず主だけを愛し支えることを決めて熱心に信仰生活をしています。すると天使もうらやましい尊い区域長の職分を受けました。嬉しくて感謝でした。息子の教育のため職場を通いながらも区域長の職分にも恥ずかしくないように忠誠するように努力しました。職場の中でも熱心に福音を伝え教会を通っている聖徒達が集まって職場礼拝も捧げました。時によって助けてくださり職分に疎かにならないように新しい力もくださいました。その後、首区域長の職分もうけました。
　私は今この証を書きながら涙が止まらないです。母を伝道しなかったことが後悔になり心が痛いからです。このように痛かったなら生きる間まず伝道したのに、いくら親孝行しても意味がないと思います。亡くなった母にも申し訳ないし神様にもかたじけないです。
　母が生きる間過ごした寺で一緒に住んでた甥が大きい事業を作ってあげると今まで集めたお金を全もって行かれてしまいました。子供の時から私の家で見守って育った子なので断らなく信じて預かったのに、一生集めた財産がいきなりなくなりました。しかし、今回のきっかけで旦那が神様に向かって心の扉を開いて祈りました。今まで私が教会から帰って来る時間になると全のドアを閉じて偶像崇拝をしてキリスト教の信仰に対する拒否が酷かった旦那が結局主の前で手を両手をあげて出ました。
　私達の夫婦はその日から手をにぎて世の欲を捨て主だけを信じ委ねることを決心しました。すべての財産を無くして主を信じ支えると夫婦の未来がけして不幸ではないし成功する人生になることを信じました。神様は善を行なわれ愛と恵みが豊かである天の父でした。新しい力で以前よりもっと熱心に生き再び経済的に回復され家も買えるように助けてくださいました。その間旦那が忠実に礼拝生活をして暑理執事の職分を下さり、不審者達を伝道して区域の弱い聖徒を教会に導きます。旦那が変わって熱心に主と教会を支え祭祀を捧げないと私を迫害した舅もイエス様を受け入れ天国に召されました。
　卑しめられたのは私のために良いことでした。わたしはあなたの掟を学ぶようになりました。（詩篇　119：71）詩篇の記者の告白と賛美が私の体験で出る真実な告白になり賛美になりました。ハレルヤ！全ての家族が主を賛美します。神様が過去私に下さった恵み、現在下さる恵み未来に下さる限りない恵みに限りなく感謝を捧げます。“あなたかたは、キリストを見たことがないのに愛し、今見なくても信じており、言葉では言い尽くせないすばらしい喜びに満ちあふれています。それは、あなたかた信仰の実りとして魂の救いを受けているからです。”（ペトロの手紙一　1：8,9）

［信仰コラム］

おっしゃっている神様

″神は、むかしは、預言者たちにより、いろいろな時に、いろいろな方法で、先祖たちに語られたが…″(ヘブライ人への手紙 1:1、2)

もし神様が人生に全くおっしゃらず沈黙したらこれよりもっと惨めており、激しい絶望はないです。 人生は存在と生の根源も理由も目的も分からぬまま混沌と空虚と暗闇の中で迷うが滅亡に置かれることになるでしょう。 したがって、神様が私たちにおっしゃったことがどれだけうれしく、ありがたいことなのか全部言いようの道ありません。
第一に、神様が様々な手段と方法で話されます。
神様はその建設した万物を通じてお話します。 天地万物はこれを観察する者に創造主がいることを教えてくれて、創造主、神の知恵と権能が無限清福を知らせて、神様の誠実清福を知らせてくれます。 その他にも神様が建てたすべてのことを観察したり、耳を傾ける者は神様の神霊の音声を聞くようになります。
神様は人々に直接お話したりもしました。 アダムとハワに自ら言って犯罪一であるにも直接おっしゃいました。 擬人ノアには洪水の審判と傍注を予備することに関して詳細におっしゃいました。 イスラエルの族長であるアブラハムとイサクとヤコブにもおっしゃってモーセとヨシュア記をはじめとする預言者におっしゃいました。 また、使徒たちとパウロ使徒も神様の音声を直接聞きました。 神様は天使を通じて話したりもしました。 そして神様は私たちにおっしゃることをキリストの中ですべておっしゃいました。 キリストはこの最後の時代のための神様のお言葉です。 イエス・キリストは神様の言葉そのものです。 さらに、今日の神様は記録された神様の言葉である聖書と聖霊を通じて、私たちにおっしゃいます。
第二に、神様がおっしゃったことは人に生命と死亡、福と呪いを決める基準になります。
神様の言葉は虚空を鳴らして消えてしまう空虚な音がありません。 人が神様の言葉とどのような関係を持つようになるかによって、現世と内生での暮らしの事情と状態が決定されています。 人は神様のお言葉を聞いた者と聞いていない者に区分されます。 福音を聞いた人は聞いていない人たちに福音を伝えなければなりません。 神様の言葉が伝播されれば、神様の言葉に反発する者と言葉を思慕して、傾聴する者に区分されます。 神様の言葉を歪曲されて伝える者と言葉をそのまま伝える者に区分されます。 神様の言葉である聖書を私欲を追って自分の思ったとおりに解釈して教えるので言葉を歪曲されるようにする者は神様の審判を受けることになります。
また、神様の言葉を信じる者と不信する者に区分されます。 人たちがなんと言っても、状況がどうであれ、神様のお話どおりになるという信念をもたなければなりません。 そして神様の言葉を従順にする者と不順従する者に区分されます。 申命記 26 枚には神のことについた純宗の有無がもたらす結果を鮮明に対照しておきました。 神様のことについて、不順従するのは心が剛愎たわけです。 私たちは心を下げて割って注意ことについて徹底的に随順する者がなる必要があります。
神様がおっしゃったことによって私たちが人生の道を彷徨値ないながら歳月を無駄遣いしないようになりました。 救援を得ました。 どう生きるかを知り、どう生きるべきかを分かるようになりました。 神様の言葉は信じて追従する者に必ずしも幸福な結果を生み出します。 神様が沈黙しなくておっしゃった理由は私たち人生の幸福のためのものです。 私たちはせっかちでいらいらする気持で神様のお言葉を聞いており、信じて追従しなければなりません。 人生の究極的な幸せは神様の言葉を慕って傾聴し、信じて追従する者にあります。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

イエス様が奇妙に思う人々

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

イエス様は 30 歳からわずか 3 年くらいの公的な活動をなさりながら多くの人々に会いました。 イエス様が会った人々の中イエス様を驚かした人々がいます。 イエス様が案外に思ったと形容された原語が私たちの聖書にある場面は “奇妙に思った”と翻訳されたし、他の場面は “おかしいと思って”と翻訳されました。どの人々に対する驚きは歎息の意味を持っているが、ある人に対する驚きは感嘆の意味を持っているからです。 イエス様が驚きを禁じえなかった二つの事件を詳らかによく見ましょう。

先に、イエス様がナザレ人々を おかしいと思った事件をよく見ます。

イエス様が彼の弟子とともにナザレ村を訪問しました。 イエス様はベッドレヘムで生まれたが 30 余年をナザレで住みました。 イエス様が会堂に入って教えました。 イエス様が教えるお言葉をきいて多くの人が衝撃的な反応を見せました。 “この人がどこでこういったことを習ったのかこの人に与えられた知恵とその手で成り立つこんな奇蹟がどうする事か?” と彼らが言いました。 彼らはイエス様が教育を受けないことが分かっていました。 彼らの驚きは癬忌心と嫉妬心に変わりました。 彼らはまた言うのを “この人は大工ではないか。マリヤのむすこで、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄弟ではないか。またその姉妹たちも、ここにわたしたちと一緒にいるではないか」。こうして彼らはイエスにつまずいた。”と言いました。 イエス様の身元を明らかにするこのような言葉はイエス様を軽蔑しようとする意図から出たのです。しかしもし彼らがイエス様の教えるお言葉を慎重にきいて行うことを深く考えながら見たらイエス様に対する彼らの先入観と固定観念をすべて捨て出してしまったはずです。 “見よ、おとめがみごもって男の子を産む。その名はインマヌエルととなえられる。”(イザヤ書,7:14). “ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、その名は、「霊妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君」ととなえられる。”(イザヤ書 9:6). ナザレ人々は聖書の予言をききながらメシアを待ちこがれるイスラエル民でした。 彼らはイエス様の教えを直接に聞きました。 イエス様が行う奇事と異蹟をきいてみました。 それなのに悟ることができなかったです。 このように彼らはイエス様を歓迎して信じられる十分な条件を持っていたからイザヤの予言が成就して今は救世主がいらっしゃって彼らの中いらっしゃる事実によって押えつけることができない喜びと感激を感じたのが当然です。 ところでむしろイエス様を排斥する行動をしました。 ナザレ人々のこんな態度に対してイエス様は驚きました。 おかしいと思ったという表現が非常に適切です。 偏見と、嫉妬心と驕慢が彼らの目を閉じたし耳を阻みました。 イエス様がそこではどんな権能も行うことができなくてただ少数の病人に按手して治しました。

ナザレ人々よりもっと驚くべきな人々がいます。いわゆる母胎信者と言いながら聖書のどおり信じない人々がそうです。 牧師あるいは神学教授と言いながら非聖書的な聖書観と基督観を教える人を見れば驚かざるを得ないです。 また多年間福音的な教会に通った人が異端に惑いされて引かれて行ってしまうことを見ればまことにおかしいに驚くべきです。 また礼拝と奉仕をなおざりにする 執事 、勧士、長老を見ればおかしい気がします。 救いをもらった喜びと感激があったらそんな態度を持つのが可能ではないからです。 こんな人々はイエス様の当時のナザレ人々のようにイエス様におかしいと思いを受ける人々です。

次は、イエス様がカペナウムで異邦人百卒長を奇妙に思った事件をよく見ます。

イエス様がカペナウムに入って行ったらある百卒長がユダヤ人の長老をイエス様に送って懇請するのを “主よ、わたしの僕が中風でひどく苦しんで、家に寝ています」” としました。 “イエスは彼に、「わたしが行ってなおしてあげよう」と言われた。 彼らと一緒にいらっしゃるのに、その家であまり遠いではない所に至った時にその百卒長が友達を送ってイエス様が彼の家に入って来ることを引き止めました。 “そこで百卒長は答えて言った、「主よ、わたしの屋根の下にあなたをお入れする資格は、わたしにはございません。ただ、お言葉を下さい。そうすれば僕はなおります。わたしも権威の下にある者ですが、わたしの下にも兵卒がいまして、ひとりの者に『行け』と言えば行き、ほかの者に『こい』と言えばきますし、また、僕に『これをせよ』と言えば、してくれるのです」。イエスはこれを聞いて非常に感心され、ついてきた人々に言われた” としました。 イエス様が百卒長の言葉をきいて奇妙に思いながら付いて来る群れの後ろ向きになっておっしゃるのを “「よく聞きなさい。イスラエル人の中にも、これほどの信仰を見たことがない。” としました。 それからイエスは百卒長に「行け、あなたの信じたとおりになるように」と言われた。すると、ちょうどその時に、僕はいやされた。 イエス様が百卒長の態度に対して奇妙に思ったがこれは感嘆して案外に思ったことを意味します。その理由は 第一に、百卒長はイエス様が誰なのかを分かっていました。

彼はイエス様を示して “神様”と呼びました。 百卒長はイエス様から神様の威厳と権勢を見たのです。 百卒長はイエス様を直接会ってみたことがなかったがどんな経路を通じてイエス様に対する正しい知識と信仰を持つようになったんでしょうか? 彼がユダヤ人の会堂を建ててくれたし、ユダヤ人の長老と親密な関係を持っていたといういくつかの点を勘案して見れば百卒長が聖書に記録された律法と予言が分かるようになったということは疑うことがないです。 彼は聖書の予言を通じてメシアのいらっしゃるに対して分かるようになったはずです。 なおかつイエス様がカペナウムを本部にして活動したから百卒長はイエス様が教えるお言葉と行う奇事と異蹟に対して知識を得るようになりました。 それによって百卒長はイエス様が聖書に予言されたメシアという事実が分かるようになりました。 百卒長はイエス様がすべての病気を治す偉大な医者というのが分かりました。百卒長はイエス様から主神様の威厳と権勢を見ました。 だからイエス様が自分の家に入って来ることを適わなかったのです。

二番目で、百卒長はイエス様のお言葉に絶対的権威があるのが分かりました。

イエス様が自分の家へいらっしゃるということを百卒長が婉曲に遠慮した他の重要な理由は “ただお言葉ばかり言って私のしもべに治してください。” という返事に現われています。 百卒長はイエス様がおっしゃればそのお言葉は信じる者にそのまま成り立つということを信じました。 これは天地をお言葉で造った神様の能力と権勢が分かる知識から出たのです。 天地万物は神様のお言葉によってできたことを聖書が啓示しています。 神様がおっしゃったらそのままになったと創世記 1 章に記録されました。 詩編 33 編 6 節には “もろもろの天は主のみことばによって造られ、天の万軍は主の口の息によって造られた。” としました。 イエス様も命じればそのお言葉どおりなりました。

イエス様が弟子とともに船に乗ってカリリのみずうみを渡ったところに荒い風波が起きると “風をしかり、海にむかって、「静まれ、黙れ」と言われると、風はやんで、大なぎになった “ イエス様が命じたらおっしゃるとおり死亡者が生き返えました。 イエス様のお言葉は創造主の権勢と能力があるという事実を百卒長は分かって信じました。 百卒長はイエス様とイエス様のお言葉は等しいということが分かりました。 イエス様は人であるのみならず神様です。ヨハネによる福音書 に記録されるのを “初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。 この言は初めに神と共にあった。すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった。”(ヨハネによる福音書 1:1) しました。 また記録されるのを “そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまことに満ちていた。”(ヨハネによる福音書 1:14) しました。 神様のお言葉が肉体になって世の中へいらっしゃったらその名前をイエス様と言いました。 百卒長はイエス様のお言葉とイエス様は一人で分離することができないという事実が分かる知識と信仰がありました。 詩編 107 編 20 節に記録されるのを “そのみ言葉をつかわして、彼らをいやし、彼らを滅びから助け出された。” といいました。 皆さんは聖書お言葉でイエス様に会う楽しさを持つように願いします。 神様のお言葉が皆さんの心に住むことがすなわちイエス様を仕えることであるということを悟ってください。

私たちはその頃のユダヤ人より信仰を持つにはより良い条件を持っています。 私たちは新旧約の聖書を皆が持っています。 イエス様のあがない使役が成就した以後に暮しています。 求めるすべての者に聖霊を注いでくださる時代に暮しています。 “奇妙に思う”というヘルラ語は “驚く” “奇妙に思う” “感嘆する”などに翻訳されます聖徒の皆さんは私たちの神様からナザレ人のように “おかしいと思う” 人にならないで、百卒長のように “奇妙に思う” 信仰を持った聖徒になるように願いします。